

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和6年2月末	令和6年5月末	令和6年8月見通し	令和6年11月見通し
+38千トン 〔2049千トン〕 (101.9%)	+65千トン 〔2114千トン〕 (103.2%)	-30千トン 〔2084千トン〕 (98.6%)	-54千トン 〔2030千トン〕 (97.4%)
2025千トン (98.8)	2062千トン (97.5)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和6年3月末	令和6年6月末	令和6年9月見通し	令和6年12月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は139,100円。前期比±0円。市場の様子はあまり変わらない。建築物件はある程度出てくると思われたが、年度末を迎えても人手不足や資材高騰により中小建築案件は引き続き低調。メーカー値上げが表明されたが、年度末における駆け込み需要もなかった。市況は横ばいのままであった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は140,700円。前期比+1,600円。建築需要は前年よりも若干減の水準で低調に推移。資材高騰や人手不足の影響で中小物件は手控えられた。大型案件も出件の端境期で需要の盛り上がりが見えなかった。価格転嫁はなかなか進んでいない。	需要環境についても、今後盛り上がるような雰囲気は全くない。仕入を抑えているため在庫は減少傾向だが、夏場の猛暑や夏季休暇により需要環境は極めて低調な状況。秋口に差し掛かっているが改善の兆しはほとんどない。流通の価格転嫁は道半にもかかわらず、某電炉メーカーの値下げ発表により市況は下落傾向となっている。需要が低調な中でも流通は粘り強く価格維持に努めている。	建築物件は多少あるものの、人手不足と働き方改革による労働時間の減少により、中小物件の延期や中止、大型物件においても工期遅れなどが生じ、鉄鋼流通においても荷動きはゆっくりで低調が継続されるだろう。また、値下げ圧力が加わり市況は下落傾向。価格が崩れ、今後は必要な値下げでより一層、厳しい状況になると懸念している。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

8月の仕入量は125,510トン前月比-17.3%、前年同月比-11.4%、販売量は130,924トン前月比-16.5%、前年同月比-11.3%。前月比において仕入量、販売量はともに著減、前年同月比において仕入量、販売量ともに著減となりました。在庫量は221,238トン前月比-2.4%、前年同月比+3.6%、在庫量は前月比減少、前年同月比増加しました。在庫率は169.0ポイントと上昇しました。8月販売量は需要の低迷状況に加え稼働日が例年より少なく前月比、前年同月比ともに著減しました。建築向けの工期遅れなどが人手不足により常態化していることが要因と思われます。在庫は適正水準を保つため仕入を控えているにもかかわらず、それ以上に需要が落ち込んでいる模様で在庫率はここ数年で1番高い数字となっています。需要の少なさから市況は弱含んでいますが、なんとか維持しているような状況といえます。

4. 大阪

7～9月は、需要の後退から出荷は低調。特に建築関係の落ち込みが大きく、その他の業種も低調。H形鋼は需要の落ち込みに加え価格の先行き不安もあり在庫調整が進む。

10～12月の需要については、季節的にも需要期であり、7～9月出荷より向上と思われるのですが、7～9月の出荷実績が大きく落ち込んだところからの浮上で前年同月比と比べると厳しい状況になりそう。恐らく、今年後半から来年、需要は期待できないと思われる。